

昭和三年度

水稻新品種育成試驗設計書



高知縣立農事試驗場



(一) 試驗要項

(一) 多肥栽培ニ依ル交配用品種選定試驗

目的 多肥栽培ニ適スル新品種ノ育成ヲナスニ當リ之ガ交

配用品種ヲ選定セントスルニアリ

(二) 多肥栽培ニ依ル雜種第四代目以後ノ系統育成試驗

目的 多肥栽培ニ適スル新品種ノ育成ヲナスニ當リ雜種第

四代目以後ノ系統中ヨリ優良系統ヲ選出セントスル

ニアリ

(三) 多肥栽培ニヨル未固定系統生産力檢定試驗

目的 多肥栽培ニ適スル新品種ノ育成ヲナスニ當リ生産力

ノ査定ヲ行ヒ優良品種ヲ選定セントスルニアリ

(四) 晚植栽培ニ依ル交配用品種選定試驗

目的 晚植栽培ニ適スル新品種ノ育成ヲナスニ當リ之ガ交

配用品種ヲ選定セントスルニアリ

(五) 晚植栽培ニ依ル雜種第四代目以後系統育成試驗

目的 晚植栽培ニ適スル新品種ノ育成ヲナスニ當リ雜種第

四代目以後ノ多數系統中ヨリ優良系統ヲ選定セント

スルニアリ

(六) 晚植栽培ニヨル未固定系統生産力檢定試驗

目的 晚植栽培ニ適スル新品種ノ育成ヲナスニ當リ生産力

ノ檢定ヲ行ヒ優良品種ヲ選定セントスルニアリ

(七) 標準栽培ニヨル雜種第四代目以後系統育成試驗

目的 新品種ノ育成ヲナスニ當リ地方標準栽培ニ於テ雜種

第四代目以後ノ多數系統中ヨリ優良系統ヲ選出セン

トスルニアリ

(八) 標準栽培ニヨル未固定系統生産力檢定試驗

目的 新品種ノ育成ヲナスニ當リ地方標準栽培ニ於テ生産力ノ檢定ヲ行ヒ優良品種ヲ選定セントスルニアリ

(二) 試驗方法

(一) 耕種梗概

一、試驗圃

位置 本場ノ東方約五丁長岡郡野田村字野田
全面積壹町壹反八畝拾四步
前作 紫雲英

二、種子ノ豫措

(1) 選種

風選及篩選ノ後塩水選ヲ行フ
比重無芒粳一・一三 有芒糯^粳一・一〇

(2) 浸種

五日間桶水ニ浸漬毎日一回換水ス

三、苗代

(1) 耕起

前年ノ稻作跡ヲ休閒シ置キ一月上旬耕起ヲナス

(2) 整地

播種前ニ至リ土塊ヲ碎キ灌水シテ代掻ヲナシ短冊揚床

ヲ作り床面ヲ均整ニス

(3) 肥料

一坪當用量單位(匁)

肥料名	元肥	追肥	合計	要素量			
				窒素	燐酸	加里	石灰
人糞尿	一〇〇匁	五〇匁	一五〇匁	八五匁	一五五匁	四二匁	—
鯀粕	五〇匁	—	五〇匁	五〇匁	二〇匁	四〇匁	一八匁
過燐酸石灰	三〇匁	—	三〇匁	—	六〇匁	—	八六匁

以 挿秧

挿秧期

六月十日 (苗代日數四十日)

挿秧様式

一株ニ乃至三本

一坪六十株 畦巾一尺 株間六寸

(二) 肥料 (一畝當用量單位算)

肥料名	追肥		合計	四要素		
	第一回	第二回		窒素	磷酸	加里
紫雲英根部				〇九六〇		
堆肥	三〇〇		三〇〇	一五〇〇	〇七八〇	一八九〇
切藁	五〇		五〇	〇三一五	〇五五	〇四二五
鯨粕		三	六	〇二四〇		
骨粉		二	五	一四〇〇		
木灰	一〇	一〇	二〇	〇四〇〇	一六〇〇	
石灰	二〇		二〇			九六〇〇
四要素量合計			三、五一〇	二、八七五	三、八一五	一、九六三九

内 施肥期及施肥法

元肥ノ堆肥及切藁ハ第一回耕起後ニ骨粉ハ挿秧當日

ニ施用シ第一回追肥ノ骨分及石灰ハ第二回除草ノ際

ニ鯨粕及木灰ハ第三回ノ際ニ施用ス第二回追肥ノ鯨

粕及木灰ハ五回除草ノ後ニ施用ス

但シ上記追肥ノ施用量ハ稀生育ノ状況ニヨリ適宜計

酌スルモノトス

(一) 除草 (一時期及方法)

第一回除草 挿秧後十日目 (六月廿日頃手取)

第二回除草 挿秧後十七日目 (六月廿七日頃除草機)

第三回除草 挿秧後廿五日目 (七月五日頃除草機)

第四回除草 挿秧後卅五日目 (七月十五日頃除草機)

第五回除草 挿秧後 四十五日 目(七月廿五日頃手取)

(1) 管理 挿秧當時ハ稍深水トナシ苗ノ活着後ハ時々浅水トシ

又時々排水スル出穂前ヨリ開花ノ終ル迄ハ適當ニ灌

水シ穂着ノ後下シ初ムル頃ヨリ落水ス病害虫害鳥ニ

六常ニ注意シ其ノ防除ニ努ム

(4) 收穫 乾燥ニ收納シ量ハ計量スルニ注意ス

穂着ハ黄変シタル頃晴天ヲ選ビ刈取リテ直千ニ地干

ニシ充分乾燥シテ收納ス

(11) 收納物ノ調製

脱穀セル籾ハ蒭ニ擴ゲ日干シタルモノヲ風選シ秕及

塵埃ヲ去リ籾摺リヲナシ玄米ニ至リ更ニ篩ニ通シテ

屑米ヲ除ク

備考

以上ハ總テ當場(普通作)耕種標準ニ準據セリ

(二) 各試験特別耕種法

(一) 多肥栽培ニ依ル交配用品種選定試験耕種法

1. 苗代肥料 (坪當用量單位匁)

肥料名	元肥	追肥		合計	窒素	磷酸	加里	石灰
		第一回	第二回					
綿實粕	一五〇			一五〇	七、二	三、五		
硫酸アモニア		一五	一〇	二五	五、〇			
強過磷酸石灰		一〇	一〇	二〇		四、〇		五、七
藁灰	二五〇			二五〇		五、三	一、三	五、八
四要素合計					一、二、二	一、三、八	一、一、三	一、一、五

2. 施肥期及施肥方法

元肥ノ綿實粕ハ床造リノ際床ノ表面ニ撒布シ均一ニ攪混セ藁灰ハ播種後施用ス第一回目追肥ハ播種後十五日乃至二十日目頃ニ施用シ而シテ第二回目ノ追肥ハ挿秧前々日ニ施用ス

本田肥料 (及当用量單位貫)

肥料名	元肥	第一回追肥	第二回追肥	第三回追肥	合計	窒素	磷酸	加里	石灰
紫雲英	七〇〇				七〇〇				
堆肥	三〇〇				三〇〇				
切藁	五〇〇				五〇〇				
大豆粕	一四〇	七〇	七〇		二八〇				
硫酸アンモニア	二五	一五	二〇	一〇	七〇				
過磷酸石灰	五〇	三五	三五	三〇	一五〇				
硫酸加里	一五	〇五		〇五	二五				
合計						六二四	三九〇	三三二	六三〇

六

石	灰	四要素合計
二〇	二〇	六二四
		三九〇
		三三二
		六三〇

施肥期及施肥法

石灰ハ紫雲英刈取後耕起前ニ施用ス

紫雲英堆肥ハ藁ハ荒代播ノ際ニ撒布施用ス

其他元肥、種代播ノ際撒布施用ス

(二) 晚植栽培ニ依ル交配用品種選定試験耕種法

人浸種 三日間桶水中ニ浸漬シ毎日一回換水ス

田代肥料 (坪当用量單位貫)

肥料名	元肥	追肥	合計	窒素	磷酸	加里	石灰
綿實粕	七〇〇		七〇〇	三九三	六六一	一、二二	〇、二〇
硫酸アンモニア	二〇	二〇	四〇				
強過燐石灰		二五	二五				七、〇〇

藁	灰	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	九〇〇	四六〇
合計				二一九三	六六一	一〇、一一	二、八〇

元肥ノ綿實粕、強過燐酸石灰ハ耕起後代掻ノ際ニ藁灰ハ播種後施用シ追肥ノ硫酸アンモニアハ播種後十日乃至十五日目ニ施用ス

3. 播種期

六月二十五日

4. 播種量 (一坪當) 大粒種一合 小粒種八勺

注意 苗代期間水温著シク上昇シテ苗徒長ノ傾向

アル時ハ適宜水ノ掛流シヲ行フ

5. 挿秧期

七月二十五日 (苗代期間三十日)

6. 本田肥料 (一畝當用量單位貫)

肥料名	追肥		合計	四要素量			
	第一回	第三回		窒素	燐酸	加里	石灰
元肥			三〇〇	一五〇〇	〇七八〇	一八九〇	二一〇〇

七

切藁	五〇			五〇	〇、三一五	〇、四二五	〇、一三〇
糠粕	三	二		五	〇、四七五	〇、二〇〇	〇、一八三
硫酸アンモニア	一五	一	〇、五	三	〇、六〇〇		
過燐酸石灰	三五	二	二	七五	一、四六三		二、一五〇
木灰	一五		一〇	二五	〇、五〇〇	一、二五〇	七、五〇〇
合計				二九八五	二、九九八	三、六〇〇	一、二〇七三

7. 施肥期及施肥法

原肥ノ堆肥及切藁ハ耕起ノ際施用シ糠粕ハ硫酸アン

モニア過燐酸石灰ハ代掻キノ際ニ施用ス木灰ハ他ノ

金肥施肥後五日目ニ施用

8. 除草ノ時期及方法

第一回除草 挿秧後十日目 除草機

第二回除草 挿秧後廿日目 手取

(三) 各試驗栽植標準

栽植畦間×株間	一區株數	一區畦數	一區面積	區制	標準區	備考
---------	------	------	------	----	-----	----

一、交配用品種撰定試驗 (多肥及晚植栽培)

三本植	一尺×六寸	一八〇株	四畦	三、〇坪	一區制	晚植五區每多肥二品種 一〇區每 別二採種區設
-----	-------	------	----	------	-----	------------------------------

二、雜種四代以後系統育成試驗 (多肥標準晚植栽培)

一本植	一尺×五寸	一〇八株	二畦	二、〇坪	二區制	晚植三區每 一〇區每 別二採種區設
-----	-------	------	----	------	-----	-------------------------

三、未固定系統生產力檢定試驗 (標準及多肥栽培)

三本植	一尺×六寸	三〇〇株	五畦	五、〇坪	二區制	二品種 一〇區每 標準栽培八區制 別二採種區設
-----	-------	------	----	------	-----	----------------------------------

四、全 (晚植栽培)

五本植	一尺×五寸	三六〇株	五畦	五、〇坪	二區制	五區每 別二本植區 設
-----	-------	------	----	------	-----	-------------------

(四) 試驗操作

雜種第四代以後各試驗操作 本省指定 水稻新品種育成試

驗方法 二 準據 又

(三) 試驗計劃

(一) 試驗計劃要項

試驗名	交配組數	系統又品種數	區數	總面積	備考
交配用品種撰定試驗	合七	品種數	區數	總面積	備考
一、多肥栽培 = 依ルモノ	一	六二品種	七四區	二二二步	
二、晚植栽培 = 依ルモノ	一	五二品種	六一區	一八三步	
合 計	一	一一三品種	一三五區	四〇五步	
雜種第四代以後系統育成試驗	一	二	三	四	
一、多肥栽培 = 依ルモノ	一〇組	二四九系統	三一〇區	四六五步	
二、晚植栽培 = 依ルモノ	一五組	三七五系統	三〇五區	四七五步	
三、標準栽培 = 依ルモノ	一二組	三五〇系統	四六〇區	六九〇步	

m 25	m 24	m 23	m 20	m 18	m 17	m 12	m 9	m 8	m 6	m 4	m 2	標 m 1
合 一七七号	合 一〇二号	畿内晚稻五一号	神力二三九一号	旭一號	旭號	神力四号	鹿見島旭一号	鹿見島晚白笹一号	晚稻朝日	九州八号	奈良晚神三号	西ノ宮
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	晚	晚
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	二	
"	"	"	"	"	熊本	宮崎	"	鹿見島	岡山	熊本	奈良農試(昭二)	
("	("	("	("	("	("	("	("	("	("	("	("	標 準 乙

一〇

標 m 1	品 種 番 號	三多肥栽培ニ依ル交配用品種撰定試験供試材料 (昭和三年度)										合 計	二 年 目					標 準 品 種	年 試 次 驗	
土 佐 神 力	品 種 名												計	晚	中	早	計	晚	熟 期	
早	早 中 晚 年 次 驗											五 一	五 〇	四 〇	七 〇	三 〇	一 〇	一 〇	品 種 數	
	取 寄 先 (取 寄 年 度)											六 一	五 〇	四 〇	七 〇	三 〇	一 一	一 一	區 數	
標 準 甲	備 考											供 用 面 積 一 八 三 步	昭 和 二 年 度 ニ 於 テ ハ 試 験 供 用 材 料 甚 ダ 多 カ リ シ 為 品 種 ノ 整 理 ヲ 行 ヒ 本 年 度 ハ 新 規 編 入 セ ル 品 種 ナ シ 故 二 年 目 該 当 ノ モ ノ ナ シ					五 種 毎 ニ 一 區 ヲ 置 ク		備 考

四晚植栽培ニヨル交配用品種撰定試験供試材料 (昭和三年度)

七標工二	品種番号	相川四四号	早中晩	取寄先 (取寄年度)	標準甲
	品種名		年次		備考

m	m	m	m	m	m	m	m	m	m
98	95	96	110	49	109	108	107	106	
晚稻交配三三号	丹後神力	相徳一九号	銀坊主	畿内二一九	畿内三七	晚白筵	愛知旭	白千本	
"	"	晚	中	"	"	"	"	"	
"	"	=	-	=	-	"	"	"	
岐阜	京都農試	"	"	"	當場	"	"	愛知	
(昭二)	(昭三)	(昭三)	(昭三)	(昭三)	(昭三)	"	"	"	

m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m
104	93	102	108	91	90	89	88	86	74	73	72	71
滋賀関取一一号	京都旭一号	愛國	小粒	奥吉撰	神力	相川四四号	西宮四八号	旭	畿内一八八号	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	六八号	八一号	九二号
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
滋賀	京都農試	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	(昭三)	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

55	52	50	49	45	44	42	39	38	36	31	30	29
吉備穂	北坊主	畿内一七〇号	晚神力	相徳	神徳	播磨錦	香川神力二号	中稻大泉八六号	交配七号	神力一号	畿内晚稻八八号	晚成神力一〇号
"	"	"	"	"	"	"	晚	中	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	當場	香川	徳島	和歌山	"	岡山	廣島
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

23	21	20	16	12	11	9	8	7	6	5	2	1
一号山北坊主	福神	雄町×神力	神力一四ノ三三一	神力一四ノ一二	早穂増四ノ一二五	旭一四ノ三六号	旭一四ノ二五号	宍神力	関取	豊穂一号	鹿児島曲玉一号	九州八号
晚	"	中	"	晚	中	"	"	"	"	"	"	晚
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	二
"	"	"	"	"	"	"	熊本	福岡	"	大分	"	鹿児島農試(昭三)
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

栽培條件			多肥			晚植			標準			總計
世代	組合數	親系統數	計	第四代	第五代	計	第七代	第六代	第五代	第四代	計	
交代組合數	六	二〇	一〇	八	三	一五	三	一	三	八	一八	一
親系統數	九	二〇	二九	二	五	三七	四	三	六	三	一〇	一
當該世代系統數	一五七	九二	二四九	一七〇	三六	二七五	四一	二八	三〇	三一〇	八三七	一
備考			供用面積四六五步			供用面積四五七、五步						供用面積六九〇步

一五

備考 組合數ハ各試験共通ノモノハ總計ニ加算セズ
 六多肥栽培依ル雜種第四代以後系統育成試験供試材料 (昭和三年度)

第四代							區別番号	供試品種及系統	備考
父	〃	〃	〃	〃	母	名稱			
二七	一九	二〇	二一	二二	二五	五五二八	早神力		
晚白筴	〃	竹成	神力	早神力	中箱神力				

第五代

			標準	〃	〃	〃	父	〃	〃	〃	母
〃	〃	〃	系統群 一八	一五 竹成	一六 愛國	一七 須賀一本	一八 竹成	一五 晚稻神力	一六 上州	一七 中稻神力	一八 撰一
一五	一六	一七	一八								
二	二	二	三								
二二系	二〇系	二〇系	三〇系								

							標準	〃	〃	〃	〃	〃
合	〃	〃	〃	〃	〃	〃	系統群 二七	一九 神力	二〇 〃	二一 晚白笹	二二 愛國	二五 神力
計	一九	二〇	二一	二二	二五	二七	二七					
二〇	四	三	三	三	五	二						
一五七系	三四系	二〇系	一五系	三〇系	三七系	二一系						

第七代							第六代					
標準	〃	〃	父	〃	〃	母	標準	父	母			
相川四号	八 細禪坊主	九 福島	一三 新関取	八 〃	九 豊國	一三 衣笠早生	系統群 一三 相川四号	一三 撰一	一三 白笹	合 計	〃 一五	
							三			五	一	
							二八系			三六系	一〇系	

第五代												
		標準	〃	〃	父	〃	〃	母				
〃	系統群 一七	相川四号	一五 竹成	一七 須賀一本	一八 竹成	一五 晚稻神力	一七 中稻神力	一八 撰一	合 計	〃 一九	〃 二〇	〃 二一
二	二								二三	五	二	二
一〇系	一六系								一七〇系	三〇系	一三系	一一系

條裁	件培	年試	次駢	第五代	世代	交配	組數	四	系統數	二五系	區制	二區制	備	考
----	----	----	----	-----	----	----	----	---	-----	-----	----	-----	---	---

九、未固定系統生產力檢定試驗計劃概要 (昭和三年度)

		第七代				第五代								
標準	父	母	合	〃	〃	系統群	標準	父	母	合	〃	〃	系統群	標準
乙甲	一	一	合	〃	〃	乙甲	乙甲	一	一	合	〃	〃	乙甲	乙甲
西ノ宮	新関取	衣笠早生	計	一五	一七	西ノ宮	西ノ宮	一	一	一八	一五	一七	西ノ宮	西ノ宮
一			六	二	二	二	一						三	一
一〇系			三〇系	一〇系	一〇系	一〇系	一〇系						一〇系	一〇系

〃	〃	父	〃	〃	母	合	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一五	一七	一八	一五	一七	一八	合	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
竹成	須賀木	竹成	晚稻神力	中稻神力	櫻一	計	九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六
						三五	五	二	二	五	四	五	五	五
						三一〇系	四〇系	一〇系	一一系	六一系	四五系	五〇系	五〇系	五〇系

第一年目					試験年次		供試品種又ハ系統	備考
〃	〃	〃	〃	交配一八号	標準	區別		
一四号 F6	一五号 F5	一六号 F5	一七号 F5	一八号 F5	一一一 相川四号	番号 名稱	系統數又ハ系統數	
一系	二系	二系	三系	五系	二二區			

二、晚植栽培ニ依ル未固定系統生産力檢定試験供試材料(昭和三年度)

〃	〃	〃
二号 F7	三号 F8	六号 F7
一系	三系	一系

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	交配一八号	標準
七号 F7	八号 F7	九号 F7	一〇号 F7	一一号 F7	一二号 F7	一三号 F6	一四号 F6	一五号 F5	一六号 F5	一七号 F5	一八号 F5	一八号 F5	一八号 F5	乙
三系	二系	三系	三系	二系	一系	二系	三系	三系	四系	六系	一三系	一三系	一六西ノ宮	一二区

第一号

二 号 F7	三 号 F8	六 号 F7	七 号 F7	八 号 F7	九 号 F7	一 〇 号 F7	一 一 号 F7	一 二 号 F7	一 三 号 F6
一 系	三 系	一 系	五 系	五 系	二 四 系	三 系	三 系	二 系	三 系

二
四

白地栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

雜種栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

白地栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

雜種栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

白地栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

雜種栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

白地栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

雜種栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

白地栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

雜種栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

白地栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

雜種栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

白地栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

雜種栽培之米以雜種米代其後者其產量亦較多

合肥堆

苗代

苗代田

縮尺六百分之一寸

